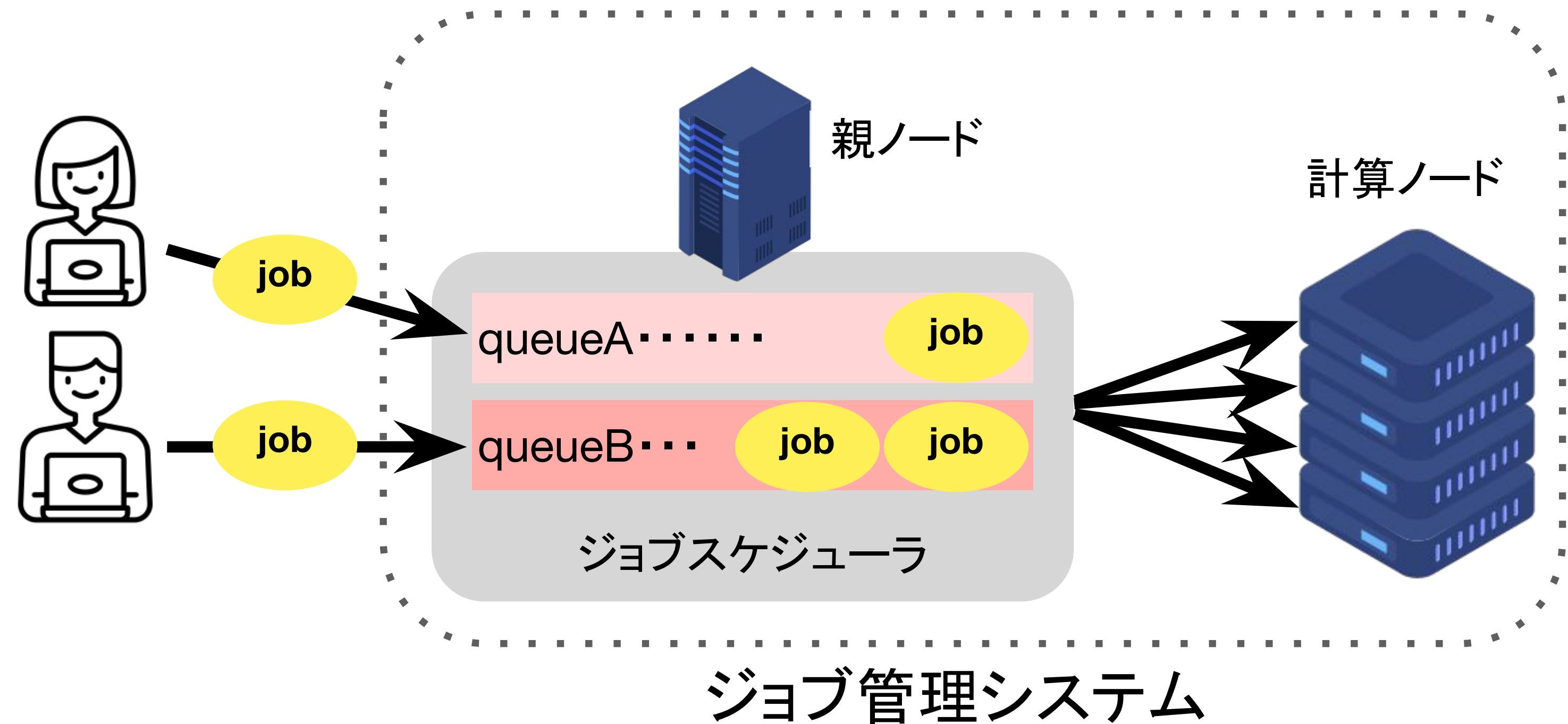


RCCS計算機利用方法

ジョブ管理システム:

- ・ 複数の人間が同じ計算機群を使う
- ・ どのマシン/CPUが空いてるか? どの計算を優先させるべきか?

- ▶ 自動で計算機資源の割り当てて効率を上げる
- ▶ ユーザはコマンドで親ノードにジョブを投げるだけ
- ▶ ジョブは「キュー」と呼ばれるリストに入ってから実行を待つ



- ・ ジョブ: 実行するコマンドやアプリケーションを記述したシェルスクリプト形式のタスク

RCCSにおけるジョブ管理システム

全ての解析はジョブ管理システムを経由して実行すること

- ・基本はPBSの仕様に従う
- ・RCCSではジョブ投入、ジョブ確認などに独自コマンドを採用している

コマンド対応表 PBS/RCCS ジョブ管理システム

PBSコマンド	RCCSコマンド	説明
<code>qsub file_name</code>	<code>jsub file_name</code>	ジョブを投入する
<code>qstat -u my_account</code>	<code>jobinfo</code>	自分のジョブの状態を表示
<code>qstat -Q</code>	<code>jobinfo -s</code>	キュー/ジョブタイプの詳細を表示
<code>qstat</code>	<code>jobinfo -a</code>	全てのジョブを表示(-g で同グループのみを表示)
<code>qdel jobID</code>	<code>jdel jobID</code>	指定したIDのジョブを削除
<code>qhold jobID</code>	<code>jhold jobID</code>	指定したIDの待機中ジョブを実行されないようにホールド
<code>qrls jobID</code>	<code>jrls jobID</code>	ホールド状態のジョブをリリース(実行待ち状態にする)
<code>tracejob jobID</code>	<code>joblog</code>	終了したジョブの履歴を表示(CPU点数も表示)

ジョブ実行の流れ

- ・ 実行したいコマンドをシェルスクリプトに書く

testjob.sh

```
#!/bin/bash
#PBS -l select=1:ncpus=4:mpiprocs=1:ompthreads=4
#PBS -l walltime=4:00:00
source /apl/bio/etc/bio.sh
module load diamond
cd ${PBS_O_WORKDIR}
diamond makedb --in spo --db spo
diamond blastp --query sce_prot.fasta --db spo.dmnd --out sce-spo.tab
--outfmt 6 --threads ${NCPUS}
```

- ・ **jsub** コマンドにシェルスクリプトのファイルを渡して実行

```
$ jsub testjob.sh
6439875.ccpbs1
```

- ・ **jobinfo** コマンドでジョブの実行状況を確認

```
$ jobinfo
```

シェルスクリプトファイル (ジョブファイル)

```
#!/bin/bash          ←①シェルの指定
#PBS -l select=1:ncpus=12:mpiprocs=1:ompthreads=12 ] ←②jsubオプション
#PBS -l walltime=4:00:00
source /apl/bio/etc/bio.sh ] ←③module呼び出しとアプリケーションload
module load diamond
cd ${PBS_O_WORKDIR} ←④ジョブ投入ディレクトリへの移動
diamond blastp --db spo.dmnd --out sce.tab --outfmt 6 --query sce_prot.fasta
↑ ⑤実行するコマンド
```

1. **シェルの指定**: ジョブスクリプトのシェルの種類を指定
2. **jsubオプション**: 行の先頭を #PBS で始めると、jsubコマンドのオプション指示として処理される
3. **module呼び出しとアプリケーションload**: 前講義を参照のこと
4. **ジョブ投入ディレクトリへの移動**: jsubを実行したディレクトリに移動
(変数 `${PBS_O_WORKDIR}` に jsub実行ディレクトリ名が自動で設定される)
これをしないとホームディレクトリにいる状態で続くコマンドを実行しようとする
5. **実行するコマンド**: コマンド、パスの設定、変数のセット等スクリプト本体を記述

ジョブ実行: jsub

- ・ シェルスクリプトを作成

testjob.sh

```
#!/bin/bash
#PBS -l select=1:ncpus=12:mpiprocs=1:ompthreads=12
#PBS -l walltime=4:00:00
..... (略)
```

- ・ jsubコマンドにシェルスクリプトのファイルを渡して実行

```
$ jsub testjob.sh
6439875.ccpbs1
```

- ・ jobinfo コマンドでジョブの実行状況を確認

```
$ jobinfo -c
-----
Queue      Job ID Name      Status CPUs User/Grp      Elaps      Node/ (Reason)
-----
H(c)      6439875 testjob.sh      Run      12  ebv/zo0      0:00:20    ccc147
-----
```

ジョブの確認: jobinfo

- ・ -c オプション: 最新の状態を表示

```
$ jobinfo -c
```

```
-----  
Queue Job ID Name Status CPUs User/Grp Elaps Node/ (Reason)  
-----  
H 6439875 job1.sh Run 12 ebv/ --- 0:00:20 ccc147  
-----  
H 6439876 job2.sh Run 12 ebv/ --- 0:00:20 ccc147  
-----
```

- ・ オプションなし: 数分古い情報だが jobtype, グループ名も表示

```
$ jobinfo
```

```
-----  
Queue Job ID Name Status CPUs User/Grp Elaps Node/ (Reason)  
-----  
H(c) 6439875 job1.sh Run 12 ebv/zo0 0:00:20 ccc147  
-----  
H(c) 6439876 job2.sh Run 12 ebv/zo0 0:00:20 ccc147  
-----
```

自身とグループ使用状況の確認 jobinfo -s

```
$ jobinfo -s
```

```
User/Group Stat:
```

queue: H		user (ebv)			group (zo0)		
NJob	(Run/Queue/Hold/RunLim)	1/	0/	0/-	1/	0/	0/5000
CPUs	(Run/Queue/Hold/RunLim)	12/	0/	0/-	12/	0/	0/4096
GPUs	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/-	0/	0/	0/20
core	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/1600	0/	0/	0/1600
lmem	(Run/Queue/Hold/RunLim)	12/	0/	0/-	0/	0/	0/896
sncore	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/-	0/	0/	0/4096

queue: HB		user (ebv)			group (zo0)		
NJob	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/-	0/	0/	0/-
CPUs	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/-	0/	0/	0/-
GPUs	(Run/Queue/Hold/RunLim)	0/	0/	0/-	0/	0/	0/-

jobinfoオプション(抜粋)

オプション	説明
<code>--help</code>	ヘルプを表示
<code>-c</code>	最新の情報を表示。 <code>-m</code> , <code>-w</code> , <code>-s</code> と同時指定不可
<code>-s</code>	キューの空き状況、自身の利用状況を表示。他のオプションと同時指定不可
<code>-w</code>	ジョブ投入時の作業ディレクトリを表示 <code>-c</code> と同時指定不可
<code>-m</code>	メモリ使用量の表示 <code>-c</code> と同時指定不可
<code>-L</code>	実行中ホストの全リストを表示
<code>-n</code>	各計算ノードの状況を表示
<code>-g</code>	所属グループのユーザーのジョブも表示
<code>-a</code>	全ユーザーの情報を表示、ユーザー名やジョブ名などは隠蔽される

ジョブを削除する:jdel

```
$ jdel jobID
```

- ・ ジョブIDの番号を指定して削除 (IDはjobifnoなどで確認)
- ・ 自分がjsubしたジョブのみ削除可能
- ・ CPU点数はそれまでかかった分消費される

```
$ jdel 6439875
```

ジョブ終了後:.e ファイルと .o ファイル

- ・ ジョブ終了後に自動で作られるファイル

標準エラー出力の内容 `job_name.ejobID`

標準出力の内容 `job_name.ojobID`

- ・ ジョブが実行されたノード上で保持され、ジョブの終了後にjsubされたマシンに送られる
- ・ エラーがあった際の詳細が書かれている

リソース消費量, 残量の確認 showlim/joblog

- ・これまでにグループで消費したCPU点数を表示

```
$ showlim -c
```

- ・これまでにグループで消費したCPU点数をメンバーごとに表示

```
$ showlim -c -m
```

- ・過去のジョブが消費してきた点数を表示

```
$ joblog
```

- ・グループメンバーのストレージ使用量と残量を表示

```
$ showlim -d -m
```

カウントは年度変わり目でリセットされる